

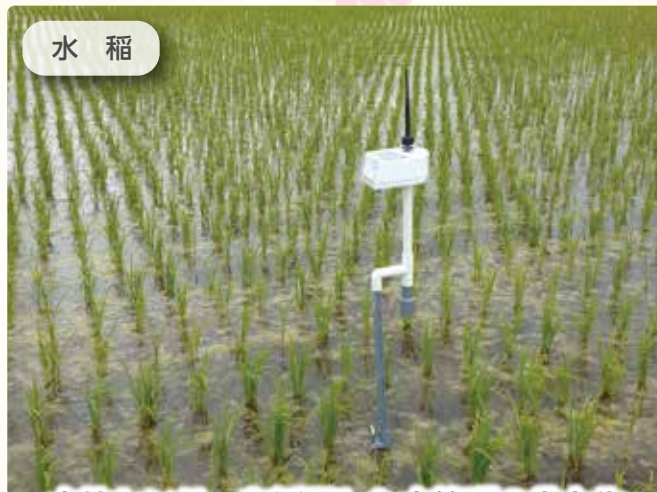
普及だより

おうとう



ドローンによる省力的遮光資材散布

水 稲



水位センサーを活用した水管理の省力化



気候変動に「適応」した産地を目指します

ダリア



簡易遮光による高温障害の回避

セルリー

左：二重遮光
右：慣行

ハウス二重被覆遮光による高温防止管理

気候変動への
「対応」から「適応」へ

経営企画主幹 太田 秀樹

気候変動を引き起こす地球温暖化は年々深刻化しており、昨年夏の日本の平均気温は統計開始以降、これまでの記録を大幅に上回り、127年間の中で最も暑い夏となりました。

このような高温、大雨の発生増加などの気候変動は、私たちの農業に大きな影響を及ぼし、収量、品質の低下や農業施設の破損などの被害をもたらしております。

このため普及課では、「高温対策マニュアル」を活用した対応技術の導入支援をはじめ、ドローンによる遮光資材の散布実証など、新たな技術のすみやかな現場への普及に取り組みとともに、機械・施設の導入など各種事業に関する情報提供を行っております。

もはや高温、大雨といった気象災害は起こりうるものと捉え、「事前に対応策を備えておく」ことは重要ですが、気候など環境の影響を大きく受ける農業の持続性を確保するためには、この変化に「いち早く適応」することが必要ではないでしょうか。

「対応」から「適応」へ、生産者のみなさまに「できること」から確実に取り組んでいただけるよう、普及課は様々な支援を行ってまいりますので、力をあわせて、作物・品質の安定化を目指しましょう。

令和7年の特徴的な天候



- 1～2月 気温、日照時間並びに積雪量は平年並。
- 3月 気温はかなり高く推移し、融雪が促進。
- 4～5月 気温は平年並～高く推移、降水量は平年並～やや多。
- 6月 気温はかなり高く、降水量は平年より少。
- 7月 記録的な高温となり、山形市など県内22地点で7月の月平均気温が1位、また、記録的な少雨。
- 8月 7月に続き記録的な高温、降水量は平年並～やや多。
- 9～10月 気温は平年より高、曇天や降雨日が多。

普及活動トピックス

果 樹

気候変動に適応した栽培技術の普及

開花期の天候不順による結実不良対策としての人工受粉の講習や、収穫期の高温による過熟果対策として遮光資材の導入を推進しました。

今後も、気候変動に適応した栽培技術の普及に取り組めます。



さくらんぼ結実確保の講習会

花 き

ダリア、さくら「啓翁桜」の安定生産に向けて

ダリアの高温対策とさくら「啓翁桜」の年内出荷率の向上に取り組んでいます。ダリアは、遮光による花弁焼け等の高温障害の回避、「啓翁桜」では、年内出荷に必要な低温遭遇時間の確保対策等を行いました。今後も引き続き、安定生産に向けて支援します。



「啓翁桜」の予冷库における低温処理の実証

作 物

気候変動に適応した米の 高品質安定生産を支援

高温に対応した米づくりを実現し、「つや姫」「雪若丸」等のブランド米生産を推進していくため、栽培研修会や巡回指導を通して、技術力の向上を支援しました。今後は、SNS(LINE)等を活用した情報発信を強化し、気候変動に負けない米づくりを推進していきます。



「つや姫」栽培研修会



稲作情報

管内の稲作情報をLINEで発信中!

野 菜

きゅうり産地の 持続・発展を推進

主要品目であるきゅうりの産地維持・発展に向けて、夏期の高温対策を中心に、気候変動に適応した技術対策を推進します。

さらに、近年の課題となっているセンチュウ害軽減対策を支援します。



技術情報の手渡し配布と現地巡回

畜 産

耕畜連携による地元産 飼料の生産・利用支援

濃厚飼料としてニーズが高い子実トウモロコシの地域内生産・利用の仕組みづくりを支援しています。今年度は、収量確保に向けた栽植密度確保や害虫防除の実証を行いました。今後も耕種農家の希望に沿った作型の検討を行い、地元産飼料の生産・利用を推進します。



真空播種機による播種実証



ドローンによる害虫防除実証

● 農薬は適正に使用しましょう! ●

★農薬のラベルは必ずよく読み、定められた使用方法で!

★生産の履歴の記帳、農薬飛散の防止、防除器具の洗浄を徹底

農村資源活用

農産加工の事業拡大や 新規起業を支援

地域の特色を活かした商品の需要が高まる中、果実乾燥技術の普及や糖資材に関する研修会を行い、加工部門の拡大や魅力的な加工品づくりを支援しています。また、起業支援として、実践者視察研修や製造実習、個別相談会を開催しています。



農産加工スタートアップ研修会（製造実習）

経営・担い手

就農相談から経営継承や 法人化など、農業経営を支援

就農希望者の収支計画作成などの対応、就農後は、栽培技術の習得支援とともに、実践的な経営管理を学ぶ講座を開催する等、新規就農者の経営が早期に確立できるよう応援します。

また、経営継承や法人化に向けた相談には、必要に応じて税理士等の専門家の派遣なども行いながら支援しています。



経営管理を学ぶ講座の開催（11月）

産地研究室

ミニセルリー「若竹」の 省力・安定生産技術を開発中

ミニセルリー「若竹」では、育苗労力の負担、定植後の活着不良や春どり作型での抽苔発生による収量・品質低下が問題となっています。そこで、村山産地研究室では、「若竹」の安定生産に向け、セルトレーを利用した省力化や苗質向上技術の開発、抽苔発生要因の解析に取り組んでいます。



生産者との意見交換

農作業時の安全確保

- ★作業を中断するときは必ずエンジン停止
- ★高所（雨よけハウスの除雪、脚立を使った剪定等）では、無理な体勢で作業しない
- ★クマ対策として、作業前の安全確認と作業は可能な限り複数人で行う
- ★熱中症対策として、作業の合間にしっかり休憩をとる

活動紹介

てっぽう町青空市

毎年5月～12月の第1、第3日曜に、村山総合支庁前で行われている朝市で、25年目を迎えました。出店会員15名が自慢の農産物や加工品を持ち寄って販売しており、毎回200名ほどのお客様にご来場いただいています。



てっぽう町青空市場
出店会員の皆さん



販売の様子

東南村山農業士会

「農業士」は、県から認定され、地域農業の振興と農業青年の育成に取り組んでいます。具体的には、農林大学校生や高校生の体験学習の受け入れ、また、青年農業士の首都圏での販売研修や先進地視察等を行っています。



11/21販売研修（埼玉県）

山形4Hクラブ

農業青年で組織する当会では、会員の圃場や先進経営体への視察、東北農村青年会議等研修への参加などを行っています。

11月には、和歌山県の柑橘農家と大阪市の卸売市場を視察し、農業経営に関する取組みや現在の市場情勢等について研修を行いました。



先進農家への視察研修

～受賞おめでとうございます～

第53回（令和6年度）全国豆類経営改善共励会 農林水産大臣賞受賞

第64回（令和7年度）農林水産祭 天皇杯（農産・蚕糸部門）受賞

株式会社おしの農場 代表 押野和幸氏（天童市）

おしの農場では、「耕作放棄地を地域からなくしたい」という強い思いから、積極的に地域の農地を引き受け、水稻（105ha）のほか、大豆（25ha）を栽培しています。

大豆では、収量が過去3年間、県平均の2倍以上で高い品質を維持していることが評価され、農林水産大臣賞を受賞しました。

さらに、年々栽培面積が増える中、先駆的なスマート農業技術の導入などにより作業効率を高め、地域の持続可能な農業を実践していることが、天皇杯の受賞につながりました。



山形県ベストアグリ賞（令和7年度）山形県知事賞・農林水産大臣賞

株式会社やまがたさくらんぼファーム 代表取締役 矢萩美智氏（天童市）

やまがたさくらんぼファームは、天童市川原子地区で、果樹生産・観光・加工・飲食・販売の5本の柱で農業経営を展開しています。さらに、農福連携、体験農泊、体験学習にも積極的に取り組むことで新規顧客だけでなくリピーターを増やすなど、観光果樹園として地域振興に大きく貢献しています。



第6回山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」山形県農林水産部長賞

のら農園 酒井正樹氏（上市市）

のら農園の「プレミアムさくらんぼアイスクリーム大福」は、さくらんぼを使用した自家製ドライフルーツや「はえぬき」の米粉を使った商品です。県産農作物を使用した商品のアイディアや食味が高く評価され、本賞を受賞しました。



むらやま米フォーラム 2026の開催

「異常高温に対応できる米づくり」に向けて、ケイ酸を利用した土づくりを中心に研修会を開催します！ぜひご参加ください！！

日 時：令和8年1月27日（火）午後1時15分～
場 所：山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）
2階大会議室
問合せ：村山農業技術普及課 作物担当
023-621-8294

NOSAIからの情報

近年多発する自然災害に備えて、果樹共済の樹体共済への加入をお勧めしています。樹体の生命保険であり、財産を守るため、ぜひご加入下さい。詳しくは、**NOSAI山形園芸部 TEL 023-656-8978** までご連絡ください。

～令和8年産に向けた準備～

積雪は平年並からやや多い予想
令和8年産に向けた準備は万全に！

〔雪害防止対策〕

積雪量は平年並が多い予想で、雪害への注意が必要です。雪害防止に向けて事前の対策を行いましょう。詳しくは [山形県雪対策ハンドブック](#) で検索

〔さくらんぼの摘芽は慎重に〕

昨年は前年の高温の影響で双子果が多発しました。今年も双子果の発生とともに、凍霜害も心配されます。摘芽の前に芽の状況を確認し、被害が大きい場合は例年よりも芽数を多く残すか、摘果で対応しましょう。



〔凍霜害防止対策〕

遅くとも3月下旬までには防霜対策の準備をしましょう。低温アラートのご利用は [やまがたアグリネット](#) を検索



「村山旬の市」

村山旬の市 検索

村山地域の旬の農産物、加工品の情報が満載！

